

## ニニューヨークのラーメン

大津 隆文

先日、ニューヨークではラーメンが一杯5000円と聞いて驚いた。もともとコストが日本よりは割高だろうから、ある程度高いのは当然かもしれない。ちなみに一風堂のラーメン「白丸」は日本では820円だが、NYでは18ドルとのこと。この値段の比較には、為替レートの影響が大きい。150円なら2700円だが、100円なら1800円だ。

私は最近の為替レートは円安に振れ過ぎていると思う。その要因は一体何だろうか。まず挙げられるのが日米の金利差である。円はゼロ金利だがドルは5%、となれば円を売ってドルで運用した方が有利だ(キャリートレード)。その背景として円は超緩和政策が続いていてジャブジャブ、需要よりも供給が多ければ通貨の価値が下がるのは当然との指摘もある。

昔習った為替レートの決定理論に購買力平価説があった。レートは長期的にはそれぞれの通貨で購入できる物やサービスがバランスする水準に落ち着くとの考え方。この説に従えば、金利が高いのは↓高物価上昇率(インフレ)↓購買力は低下↓通貨価値は下落、となる一方、金利が低いのは↓低物価上昇率(デフレ)↓購買力は維持↓通貨価値は上昇、となる筈である。

円安なら日本の物やサービスは割安なので、輸出や来日観光客が増える。逆に割高な外国品の輸入や海外旅行は控える。よって日本の貿易収支、経常収支の黒字は増加し、円は強くなる筈である。そうならないのはレートに関係なく必要な原燃料等の輸入ウエイトが大きいからだろうか。

為替レートはその国の基本的な力(ファンダメンタルズ)の象徴のように思われる。その低下は国力の低下を意味するのではないか。是非円の価値が上昇していく国になってほしい。

ビッグマック指数というのがある。世界中で愛されているビッグマック、これがどこでも同じ価値(一物一価)として為替レートを算出する方式だ。東京では390円、NYでは5・7ドル、これを均衡させるレートは1ドル=68円となる。